

## おかえりなさい 元気な水

志村 良知

「おかえりなさい 元気な水」とは、横浜市下水道局の施設の壁に大書してある標語だ。何を隠そう我がマンションの目の前は下水道局の処理施設。

マンションのすぐ前には太尾新道という遊歩道を備えた道路が新横浜から北に走っている。その道を隔てて向こうが処理場で、さらにその向こうは鶴見川だ。実はこのマンションを選んだのもこの処理場による。

ベランダから丹沢越しに富士山が見える。都会のマンションの販売資料にベランダなどからの景観のことを書いてはいけないそうだ。景観は移ろいやすく、いつ目の前に何ができて目隠しをしてしまうか分からない。その点、かなり広く、大部分は二階建て程度、最高で四階くらいの施設は、八階のわが家の眺望の妨げにはならない。

買う時、臭いが来ないかかなり気にした。当時気象に凝っていたので、季節ごとの卓越風の方角や強さを、買う予定の部屋への日の差し込み具合とともに、入念に研究した。住んでみての結果は、臭気は問題なく、日の差し込み具合も冬は深く、夏の西日は皆無で申し分ない。

処理場は地味な設備だが、毎日観察していると面白い。週日の朝の出勤風景、なぜか懐かしい。八時半、各自個性豊かなラジオ体操第一。元気一杯な声が聞こえたら、見学の小学生の団体だ。時々玄関前に献血車が大きなテントを拡げる。一棟だけ最高階は四階相当くらいだが非常に複雑な形の建物があって、消防の梯子車による放水や救助の絶好の訓練場になっている。時にここからサイレンを鳴らして出勤していく。

二十四時間稼働施設なので休日にも要員が出勤する。玄関前の幹部・来客用駐車場に、いつもの黒塗りに変わってエア・スポイラーを立てた真っ赤な車や大型バイクが停まっていたりするのが微笑ましい。

広大な曝気槽の上は球技場と広場がある公園になっている。桜の季節には鶴見川右岸に五百mほどの桜並木が新横浜からも見えるが、この並木は処理場の構内にあり、通り抜けが設けられる。